

評価細目の第三者評価結果 (高齢分野)

A-1 生活支援の基本と権利擁護

A-1-(1) 生活支援の基本

特養・通所 A① A-1-(1)-①	第三者評価結果
利用者一人ひとりに応じた一日の過ごし方ができるよう工夫している。	Ⓐ・B・C
<p>良い点/工夫されている点：</p> <p>他の高齢者施設等から入所する利用者が多いため、事前に施設の相談員やケアマネージャーから利用者の心身及び生活状況について情報収集を行っている。また、家族からは契約時に趣味嗜好や生活歴等について詳しく聞くとともに、今までの生活スタイルを継続し、安心して暮らせるよう配慮している。入所後はユニットごとに毎月カンファレンスを開催し、利用者一人ひとりの個性や心身状況を職員間で共通理解するとともに、職員の気づきを支援に反映させている。また、その人にとっての「健康的な生活」を送っていただくために、それぞれの利用者の生活の見直しや声かけの工夫等を課題として取り組みを始めている。今後とも、日中の活動を充実して過ごしてもらえるよう、活動メニューや社会参加等のプログラムの多様化について促進されたい。</p>	
改善できる点/改善方法：	
訪問 A② A-1-(1)-①	第三者評価結果
利用者の心身の状況に合わせて、自立した生活が営めるよう支援している。	A・B・C
<p>良い点/工夫されている点：</p>	
改善できる点/改善方法：	
養護・軽費 A③ A-1-(1)-①	
利用者の心身の状況に応じた生活支援（生活相談等）を行っている。	
<p>良い点/工夫されている点：</p>	
改善できる点/改善方法：	
特養・通所・訪問・養護・軽費 A④ A-1-(1)-②	第三者評価結果
利用者一人ひとりに応じたコミュニケーションを行っている。	Ⓐ・B・C
<p>良い点/工夫されている点：</p> <p>難聴の利用者が多く、また視力障がい利用者もいるため、ボードを使用したり、耳元で聞こえる声で話したり、筆談で伝える等、工夫している。利用者同士のコミュニケーションに困難さがあり、職員が意識して声をかけるようにしている。家族から届いたアルバムを一緒に眺め、会話する等して</p>	

、信頼関係の構築に努めている。
改善できる点/改善方法：

A-1-(2) 権利擁護

特養・通所・訪問・養護・軽費 A⑤ A-1-(2)-①	第三者評価結果
利用者の権利擁護に関する取組が徹底されている。	Ⓐ・C
<p>良い点/工夫されている点：</p> <p>事故防止、身体拘束、虐待防止委員会を合同で毎月開催している。施設長、相談員、看護主任及び各ユニットから介護職員が参加して、権利擁護遵守の観点から問題を出し合い、話し合いがもたれている。議事録は電子化され、タブレットから閲覧可能で他の職員との情報共有ができています。また、年2回、高齢者虐待に関する研修会を企画し、各職員が高齢者の人権擁護に関して考える機会としている。転倒防止のため、一時的に身体拘束を行うことがあるが、時間や場所を限定し、家族の同意を得る等して最小限に止めている。今後とも、セルフチェックなどにより、自分で振り返る機会を設け、面談等で活かしたり、統計を取る等して課題を見つけ、職員間での共有を通して、権利擁護意識のさらなる向上に努められたい。</p>	
改善できる点/改善方法：	

A-2 環境の整備

A-2-(1) 利用者の快適性への配慮

特養・通所・養護・軽費 A⑥ A-2-(1)-①	第三者評価結果
福祉施設・事業所の環境について、利用者の快適性に配慮している。	Ⓐ・B・C
<p>良い点/工夫されている点：</p> <p>玄関を入ると、広い廊下があり、ユニットの玄関には季節の鉢植えや可愛い置物が迎えてくれる。車いすや移動リフトの通行に妨げになるものはなく、床はバリアフリーとなっており、リビングも広い。ソーシャルディスタンスに十分な距離を取れるよう留意しているため、それぞれの利用者が車いすに乗っていても、ゆったりと過ごしている。共有空間の温度、湿度、採光について基準を決め、毎日定期的に換気を行う等して配慮している。また、清掃担当職員を採用し、施設内の清掃保持に努めている。利用者のこれまでの生活を尊重し、居心地良く過ごせるように、居室には使い慣れたタンス、衣装ケース、ハンガーラック等や好きな柄の絨毯が敷き、家族写真をたくさん掲示する等して、落ち着いた居室空間となっている。</p>	
改善できる点/改善方法：	

A-3 生活支援

A-3- (1) 利用者の状況に応じた支援

特養・通所・訪問・養護・軽費 A⑦ A-3- (1) -①	第三者評価結果
入浴支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	Ⓐ・B・C
<p>良い点/工夫されている点：</p> <p>個浴、リフト浴、寝浴があり、利用者の身体状況に合わせた入浴支援を行っている。週2回の入浴を基本としているが、身体状況により、清拭、足浴に変更する等、柔軟に対応している。また、体調不良等により、入浴できない場合は翌日に変更したり、入浴を嫌がったり、気分が乗らない場合には無理強いせず、時間を変えたり、声をかける職員を代えたり、声かけ等を工夫し、気持ち良く入浴してもらえるよう配慮している。</p>	
改善できる点/改善方法：	
特養・通所・訪問・養護・軽費 A⑧ A-3- (1) -②	第三者評価結果
排せつの支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	Ⓐ・B・C
<p>良い点/工夫されている点：</p> <p>ユニット内に3つのトイレがあり、トイレ誘導を通じて排せつの自立を支援している。排せつ状況を把握し、プライバシーに配慮しながら早期対応を行っており、利用するパットも5種類用意して、利用者の状態に合わせた対応をしている。食事内容、水分摂取量なども利用者に応じた支援を行い、スムーズな排せつを促している。また、夜間は睡眠を妨げないようにパットを選び、交換回数も利用者の皮膚の状態を考慮して行っている。</p>	
改善できる点/改善方法：	
特養・通所・訪問・養護・軽費 A⑨ A-3- (1) -③	第三者評価結果
移動支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	Ⓐ・B・C
<p>良い点/工夫されている点：</p> <p>多くの利用者が車椅子を使用しており、点検・修理のために専門職員が配置されている。車椅子は利用者の座位保持の状態に応じて使い分けられ、自分で操作できる利用者には必要に応じて支援が行われ、自分で操作できない利用者には安全な移動支援が行われている。</p>	
改善できる点/改善方法：	

A-3- (2) 食生活

特養・通所・訪問・養護・軽費 A⑩ A-3- (2) -①	第三者評価結果
食事をおいしく食べられるよう工夫している。	Ⓐ・B・C

<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>ご飯や汁物はユニット内の対面キッチンで調理しており、料理の様子、食材が見え、料理の匂いも感じられるので、食前に行われている口腔体操時から食欲をそそられている。朝食は利用者に合わせて好きな時間に食べているが、昼食と夕食は匂いと調理の音に誘われて、利用者全員が揃って食べる事が多い。主食をパンに変更したり、アレルギーの場合は代替品を提供する等、可能な限り対応している。また、行事食には季節感を取り入れ、ちらし寿司や赤飯、クリスマスケーキ等、食事が楽しみなものになるよう工夫し、提供している。日々の食事の残量を栄養士が見守りながら確認し、嗜好調査も行っている。また、定期的に栄養委員会を開催し、利用者の意見を取り入れながら、食事について検討している。</p>	
<p>改善できる点／改善方法：</p>	
<p>特養・通所・訪問・養護・軽費 A⑪ A-3-(2)-②</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>食事の提供、支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。</p>	<p>Ⓐ・B・C</p>
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>利用者一人ひとりの嚥下や咀嚼の状態に合わせ、常食に加え、刻みやペースト等4種類の形態で提供している。管理栄養士により栄養ケア計画を作成し、摂取量減少や体重減少等に対し、栄養補助食品や食べやすいプリン等も用いて体調管理に努めている。また、嚥下しやすい姿勢や座位となるように配慮し、必要に応じてトロミを使用している。食事中の事故を想定した研修も実施し、緊急時に職員が迅速に対応できるよう取り組んでいる。</p>	
<p>改善できる点／改善方法：</p>	
<p>特養・通所・訪問・養護・軽費 A⑫ A-3-(2)-③</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>利用者の状況に応じた口腔ケアを行っている。</p>	<p>A・Ⓑ・C</p>
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>月4回、歯科衛生士が来訪し、各ユニットを巡回し、毎月、利用者に対し口腔状態や咀嚼・嚥下機能のチェックを行っている。また、歯の磨き方や口腔ケアについて、職員に対してそれぞれの利用者に応じた指導をしてもらっている。口腔ケアについては毎食後に行い、歯磨きのできない利用者に対しては職員が援助して実施している。</p>	
<p>改善できる点／改善方法：</p> <p>今後、さらに、利用者一人ひとりに応じた個別の口腔ケア計画を作成し、計画に基づく支援の実施や口腔ケアに関する研修会等開催に向けて、検討されることを期待する。</p>	

A-3-(3) 褥瘡発生予防・ケア

<p>特養・通所・訪問・養護・軽費 A⑬ A-3-(3)-①</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>褥瘡の発生予防・ケアを行っている。</p>	<p>Ⓐ・B・C</p>
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>2ヶ月に1回、委員会が開催され、褥瘡の早期発見や対策などについて意見を交わし、褥瘡を発生させないケアに取り組むとともに、年1回、勉強会も開催されている。褥瘡発生のメカニズム、体位交換やクッションの当て方、福祉用具等、具体的な事例で研修している。予防的観点から、食事摂取量や</p>	

体重把握、入浴時の看護師による皮膚状態のチェック等により早期発見に努めている。
改善できる点/改善方法：

A-3-(4) 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養

特養・通所・訪問・養護・軽費 A14 A-3-(4)-①	第三者評価結果
介護職員等による喀痰吸引・経管栄養を実施するための体制を確立し、取組を行っている。	A・ B ・C
<p>良い点/工夫されている点：</p> <p>吸引の指導看護師が5名在籍し、胃ろうや鼻腔栄養などの利用者を受け入れ、対応している。日中は看護師で経管栄養等行っているが、夜間の吸引については研修を修了した介護職員が行っている。</p>	
<p>改善できる点/改善方法：</p> <p>指導できる看護師が多いが、研修を修了している介護職員は少ない。また、資格修了後の定期研修などの必要性については理解しているが、研修実施については課題が残る。喀痰吸引可能な介護職員を増やすとともに、その後の研修によるスキルアップに期待したい。</p>	

A-3-(5) 機能訓練、介護予防

特養・通所・訪問・養護・軽費 A15 A-3-(5)-①	第三者評価結果
利用者の心身の状況に合わせ機能訓練や介護予防活動を行っている。	A ・B・C
<p>良い点/工夫されている点：</p> <p>理学療法士が2名在籍し、ADL等の状況に合わせ、定期的に計画に沿って機能訓練を実施している。できる限りトイレでの排せつが行えるよう、日常的な動作訓練について介護職員から理学療法士に相談したり、実際にトイレでの移乗時に残存機能を活かす支援方法について助言をもらったりしている。また、日常生活の中での日常動作も機能訓練につながるとして、自分でできることはやってもらい、さらに、レクリエーション、趣味活動、行事等、利用者が生活の中で楽しみながら訓練を行うことも実施している。</p>	
<p>改善できる点/改善方法：</p>	

A-3-(6) 認知症ケア

特養・通所・訪問・養護・軽費 A16 A-3-(6)-①	第三者評価結果
認知症の状態に配慮したケアを行っている。	A・ B ・C

<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>入所時の情報収集により、生活歴や嗜好などを把握し、以前の環境をできる限り変えないようにし、本人のペースで過ごしてもらえよう支援している。居室には馴染みの物を揃え、できる限り今までの使っていたもの取り入れた環境づくりをしている。不穏状態や落ち着かない様子の際には、ゆっくりと話しかけ、話を聞き、それでも落ち着かない場合には、帰宅願望の人の場合には、一緒に外に出て散歩したり、電話をしたい場合には、実際に電話をかけたたりする等して、安心してもらえるよう支援している。認知症についての勉強会や研修会について、施設内で数多く実施している。</p>
<p>改善できる点／改善方法：</p> <p>今以上に、認知症についての知識を深めるためには、専門家による知識の習得が必要と考えており、例えば、認知症介護基礎研修や実践者研修、リーダー研修等の外部研修により多く、積極的に参加することで、認知症ケアのスキルを向上させ、多くの職員が認知症を抱える利用者に対して、より良くサポートできると思われる。</p>

A-3-(7) 健康管理、衛生管理

<p>特養・通所・訪問・養護・軽費 A17 A-3-(7)-①</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>日常の健康管理が適切に行われている。</p>	<p>A・B・C</p>
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>毎日の体温測定に加え、週2回の入浴時には、脈拍、血圧、酸素飽和度についても介護職員が測定している。異常があれば、看護師に報告し、対応している。服薬については看護師が管理しているが、配薬は介護職員が行い、服薬後の空袋に関しては看護師が確認後破棄することで、2重、3重のチェックを行っている。毎年1回、健康診断を実施し、異常時には、家族のみならず、職員、看護師、理学療法士にも連絡している。インフルエンザ、コロナワクチンの予防接種も施設内で接種の機会を提供している。</p>	
<p>改善できる点／改善方法：</p> <p>健康増進のための日常的なプログラムの作成について課題となっている。今後、改善に向けた取り組みに期待したい。</p>	
<p>特養・通所・訪問・養護・軽費 A18 A-3-(7)-②</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>必要な時には、迅速かつ適切な医療が受けられる体制が整備されている。</p>	<p>A・B・C</p>
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>救急時対応の協力病院が隣接しており、救急搬送する場合は救急車の要請ではなく、直接、搬送するようにしている。看護師とは24時間連携が可能な体制である。緊急時対応マニュアルを整備し、毎年、勉強会の開催や緊急時対応に係る研修を受けるとともに、心肺蘇生やAEDの使い方、AEDやストレッチャーの置き場等、緊急時の確認をしている。また、夜間の看護職員不在時の対応の仕方について明文化し、各ユニットに掲示し、職員が対応できるようにしている。</p>	
<p>改善できる点／改善方法：</p>	
<p>特養・通所・訪問・養護・軽費 A19 A-3-(7)-③</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>感染症や食中毒の発生予防を行っている。</p>	<p>A・B・C</p>

<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>年2回、全職員が感染症・食中毒予防や発生時の対応についての研修を行っている。手洗いについてもチェッカーを用い、意識して洗わないと汚染している事を周知する等、マニュアルに基づいた感染予防の基本対策を徹底している。また、看護師が講師となり、コロナ感染予防対策の動画を用いた勉強会を実施したり、隣接する病院の感染管理認定看護師によるガウンテクニック指導を受けたりしている。</p>
<p>改善できる点／改善方法：</p>

A-3-(8) 終末期の対応

<p>特養・訪問・養護・軽費 A⑳ A-3-(8)-①</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>利用者が終末期を迎えた場合の対応の手順を確立し、取組を行っている。</p>	<p>Ⓐ・B・C</p>
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>契約時に、利用者・家族に終末期の介護支援や看取りケアについて説明するとともに、意向を把握している。食事が摂れなくなってきた等、重度化した場合は、医師から説明を受けるとともに、再度、家族に確認し、看取りの意向がある場合はカンファレンスを開き、希望に沿った支援を行っている。看取り後には、職員間で話し合いや振り返りアンケートを実施し、職員の精神的ケアに努めるとともに、委員会を開催し、より質の高い終末期ケアに取り組んでいる。</p>	
<p>改善できる点／改善方法：</p>	

A-4 家族等との連携

A-4-(1) 家族等との連携

<p>特養・通所・訪問・養護・軽費 A㉑ A-4-(1)-①</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>利用者の家族等との連携と支援を適切に行っている。</p>	<p>Ⓐ・B・C</p>
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>日常的な連絡については、居室担当者が連絡を行っている。また、ケアカンファレンスの際には、できる限り家族に参加してもらえよう声をかけている。家族には、利用者の施設での様子を伝え、意見を聞き、ケアプランに反映させるとともに、定期的に各専門職から現状やサービス内容について説明を行っている。面会については、コロナ禍の状況を見ながら、ボランティア室等を活用し、面会室を確保し、対応している。</p>	
<p>改善できる点／改善方法：</p>	

A-5 サービス提供体制

A-5-(1) 安定的・継続的なサービス提供体制

訪問 <input type="checkbox"/> A② A-5-(1)-①	第三者評価結果
安定的で継続的なサービス提供体制を整え、取組を行っている。	A・B・C
良い点／工夫されている点：	
改善できる点／改善方法：	